

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	◎	一般小売店〔精肉〕（店員）	単価の動き	・飲食店向けの販売では、高単価の商品がよく売れている。商品を値上げしたにもかかわらず、販売量は落ちず、むしろ増えている。
	◎	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・これから母の日や父の日があり、客の動きが大きくなる。その影響を受けると予想されるため、景気は良い方向に動いていく。
	◎	衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・外出用の洋服をトータルコーディネートして購入する客が増えており、売上が伸びている。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊客以外にもレストランや宴会利用の来客数が大幅に増加しており、景気に大きく影響していると実感できる。
	◎	通信会社（営業担当）	それ以外	・繁華街も新型コロナウイルス感染症発生前と同様ににぎわいがあり、インバウンドも見受けられる。
	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・例年だと12月から2月が閑散期であるが、閑散期とは思えないほどの来客数である。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・就職や卒業で行事が多いため、人通りが多くなっている。新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症へ引き下げられるため、集まりや人通りに変化が生じており、飲食店にも客が戻りつつある。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数が微増したため、買上数量が増加し、客単価が上がっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月からのマスク着用ルールの緩和や新型コロナウイルス感染症の分類の5類感染症への引下げなどがあり、明るい材料が垣間見え、来街者数増加につながっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が発生して4年目に入り、当県では新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているため来街者数は増加し、販売量も伸びている。客の様子も春先となり明るくなっている。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少やマスク着用の仕方が見直され、商店街にも活気が戻っている。しかし、生活必需品の値上がりにより購買には慎重で、客単価も上がらない。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・3か月前と比較するとかなり気温も上がり、当地市場への入荷量も増え、相場は落ち着いている。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・今までが最悪な状況であったために、回復している事業者は余りなく、店により景気に差が出ている。全体的には回復傾向ではある。
	○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・インバウンドや国内旅行の客が、平日も多くみられるようになっている。
	○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・来客数は、日々前年を超えている。一方、物価高騰などの影響もあり、売上は期待していたほどはない。
	○	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の収束の兆しがみえ、マスク着用ルールの緩和もあり、化粧品・婦人衣料の売上が好調に推移している。催事等も動員が良くなり、飲食も好調に売上を伸ばしている。しかし子供服関連が若干、苦戦している。
○	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で、新入学の学生服採寸客や友の会、全店催事で店頭への来客数が増え、県内外からの観光キャンペーンやクルーズ船の来港もあり、街のにぎわいが回復している。また、商品価格の上昇で、慎重な買物傾向は続いているが、全店特招会や物産展の人気商品、ホワイトデーギフトや自家需要に加え、県特産品の焼き物、土産や記念品贈答用も増加している。加えて、当地のスポーツイベントの効果でスポーツ関連や紳士婦人雑貨も好調に推移しており、化粧品、子供用品など自家需要商品の購入単価や客単価も好調である。食堂・喫茶を含め家族で買物を楽しむ姿が増えている。	
○	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上は順調で、食品を中心として計画どおりに推移している。	

○	スーパー（店長）	来客数の動き	・マスク着用が個人の判断となり、新しい生活スタイルを取り入れながら各業種共に業務や人流が活性化している。花見シーズンでもあり来客数の増加は、顕著に表れている。
○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・3か月前は客単価の伸びにより売上が増加していたが、このところ客単価は横ばいである。しかし、来客数が順調に伸びており、景気が上向いていることを実感している。インバウンドの増加も、僅かに来客数増加の要因にはなっているが、まだ先行き不透明で喜べる状況にはない。
○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・気候が良くなり花見などで人が行動しやすい環境となっているため、外出の増加により来客数が増えている。
○	コンビニ（経営者）	単価の動き	・コロナ禍からの景気回復や人流の戻りは確実に売上に表れている。しかし、生活防衛意識により無駄な買物は控えているため、買物点数は減少している。物価高騰で商品単価上昇分だけ売上が増加しているのが実態である。
○	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・競合店が、深夜から早朝にかけて閉まっているため、その時間の来客数が若干伸びている。加えて、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、客の動向が活発になっている。
○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・年度末商戦のため、販売量が他の月と比べて増加している。前年比でも市場がやや活発になっている。
○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・今月もメーカーからの新車配給が順調に増加している。今期の決算は、前年比で増収増益を見込んでいる。
○	その他専門店 【コーヒー豆】 （経営者）	お客様の様子	・客の動向を前年と比較すると、特に新規の客の増加傾向がみられる。店の近くで海外企業による設備の建設が進んでおり、それに伴う建築要員の増加が要因と考えられる。今後もこの企業に関連した来客数の増加が予想される。
○	その他小売の動向を把握できる者 【ショッピングセンター】 （統括者）	来客数の動き	・インバウンドが増えている。
○	高級レストラン（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いており、徐々に歓送迎会なども増え、加えて、国内外からの観光客の動きがかなりある。5月に新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症になった後の先行きは不透明であるが、現在の景気は上向いている。
○	その他飲食の動向を把握できる者 【酒卸売】 （経理）	販売量の動き	・3月の売上は好調に推移している。しかし、原材料や光熱費の高騰、新型コロナウイルス感染症対策による融資の返済開始などが直近の課題であり、給与所得への還元までには至っていない。インバウンド需要が戻ってきたことで、今後の推移に期待できる。
○	観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・宿泊では全国旅行支援等もあり、今年度初めから新型コロナウイルス感染症発生前を大きく上回る利用がある。宴会等の自粛が緩和されたため、3か月前と比較すると歓送迎会や婚礼等の利用者や予約が増えている。
○	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・インバウンドが順調に戻っており、単価も好調である。
○	旅行代理店（職員）	来客数の動き	・全国旅行支援を利用した申込みが毎月増加している。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・3月に入り、歓送迎会や学校行事、コンサート、花見等通常に戻ったイベントが増加している。一方で、国内外の旅行客も増加しており、物価高ではあるが活発な人流である。
○	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の規制が緩和され、人の動向が良くなっており、県外客のタクシー利用が増加している。
○	観光名所（職員）	来客数の動き	・市内のホテルや飲食店の来客数が、明らかに増加している。
○	ゴルフ場（従業員）	お客様の様子	・比較的高価格な商品の購入や土日祝の予約数の状況から、景気はやや良くなっている。

○	美容室（経営者）	販売量の動き	・気候が良くなり行楽へ外出する人も多くなるため、客の動きは良くなっており、3か月前と比較すると状況は良い。
○	美容室（店長）	お客様の様子	・行動規制が緩和されているため行動しやすくなり、卒業式や演奏会など来客数も少しずつ増加している。
○	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・賃金上げも決定し、年度末の損益も数年ぶりに黒字転換しているため、若干上向きになると期待している。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・季節商材を扱うため、3月から4月は3か月前より物の動きは良くなるが、必需品購入であるため状況に変化はない。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・2回にわたる火災の復興が遅れているため、以前のような売上には戻らないのではないかと懸念している。
□	百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が前年の3月に解除されたことが影響し、今月の来客数は前年を上回っている。一方で、行動規制のない春休みとなり、旅行等に消費の割合がシフトしていることが想定され、客単価としては前年を下回っている。
□	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・行動規制やマスク着用が個人の判断となる等、新型コロナウイルス感染症に対する向き合い方が変わってきている。この3、4年の行動習慣や心理は、すぐには新型コロナウイルス感染症発生前に戻らないと考えている客が多い。
□	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・値上げの影響もあり、売上は前年を上回っているが、買上点数が前年を下回っており、消費者の財布のひもが固くなっていることがうかがえる。
□	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）による来客数減少や花見での増加など期間ごとに増減が激しい。値上げが一段落し、都市部では新型コロナウイルスの新規感染者数が減少して販売量が戻っているが、それ以外では厳しい状況が続いている。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・物価高による買い控えが発生している。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・値上げ状況への慣れはみられるが、来客数や買上点数が引き続き厳しい。
□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症は落ち着いてきたが、客の動きは鈍い。
□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・2、3か月前と比較すると春になり気候も良いため、新しい品物を購入する機運がある。そのことにより、集客はまずまずであるが、財布のひもは固く、品数や購買を抑えたりする傾向がみられ、難しい状況である。
□	家電量販店（店長）	お客様の様子	・物価高騰により、客の財布のひもが固い状況が続いている。新型コロナウイルス感染症が落ち着き、来客数は戻ると予想していたが、むしろ悪化している。
□	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・販売量は余り変動しておらず、ほぼ前年と同様に動いている。
□	住関連専門店（経営者）	単価の動き	・仕入価格の値上げが止まらず、来客はあるものの購入には至らない。
□	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・3月は多少客が増えている状態である。前年、前々年と比較すると回復傾向がみられるが、新型コロナウイルス感染症発生前のように、歓送迎会などが多く行われることはない。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症は落ち着いているが、相変わらず企業の団体利用はない。
□	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が落ち着き、そろそろ旅行を計画する人が増えており、社内旅行や同窓会なども少しずつ予約が入っている。
□	競馬場（職員）	販売量の動き	・コロナ禍から徐々に回復し、販売量は横ばいである。しかし、オンラインへの移行などにより、以前と比べ人出は減っている。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・12月は美容室にとって、繁忙期である。例年3月も忙しい時期ではあるが、今年は売上が良くない。倒産した話もよく聞いている。

	□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が現在でも続いており、客が増加していない。
	□	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築に関する材料や製品の単価が依然として上昇しているが、仕事の対価である収入は上昇していない。加えて、生活必需品の価格上昇も続いている。
	□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・来客数が前月と比較すると、増加している。人の動きが出ており、景気も若干良くなる。
	□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・客の動きや販売では、大きな変化がない状況が続いている。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が収束し、経済が上昇していると報道されているが、実情は決してそうではなく、企業は今までの債務を補おうと経費を徹底的に見直している。そのため、年度末で忙しい状況ではあるが、景気は後退傾向である。
	▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・物価高騰により、値上がりする商品をまとめて購入する客もいるが、当店では値上げせずに営業している。急いで購入する必要がないため、来客数は減少しており、景気回復までに時間が掛かると予測される。
	▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・電気料金等が家計を圧迫しており、生鮮食品を始め、嗜好品など買い控えの動きが鮮明になっている。買上点数の減少は顕著となっており、商品価格の値上げによる出費上昇分を、購買品数を減らすことで抑えている。
	▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症が収束したため、来客数が少し伸びている。しかし、商品の相次ぐ値上げにより、買上点数が減少するなど、客の動きに多少変化が生じており、売上は前年を下回っている。
	▲	家電量販店（店長）	お客様の様子	・春の移動マーケットが盛り上がりせず、また、新型コロナウイルス感染症に対する規制が緩んだ影響で、旅行等に客が流れている。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	お客様の様子	・新しい生活様式へ向かっており、悪い状態ではないが、売上は前年より落ちているのが現状である。前年はまん延防止等重点措置が解除されたばかりで、本年は主要店舗の改装等特殊な事情はあるが、そこを除外すればおおむね順調な推移が見込まれる。
	▲	通信会社（役員）	それ以外	・地方での生活に必要な車の燃料費が高止まりしている。複数の自家用車を所有している家庭では、家計への負担が大きい。加えて、生活必需品の値上げが続いている。
	▲	設計事務所（代表）	来客数の動き	・イベントの来場者が少ない。
	×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・3月はシングル需要の時期で、ある程度の売上は見込める予定であったが、残念ながらそのような盛り上がりはなく、現状では悪い状況になっている。
	×	住関連専門店（従業員）	お客様の様子	・来客数が減少しており、客は高単価の商品を見る様子が圧倒的に少なく、催事でも単価が上がらずに苦戦している。
	×	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・例年では販売量が増加する時期であるが、今年は伸びていない。
企業動向関連 (九州)	◎	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症も落ち着いており、人出も活発になっている。また今月は年度末であるため、全般的に客である企業や事業関係は、非常に良い月になっている。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・機械部品切削加工で受注量が伸びてはいるが、ほぼ1社のみの受注で他の客から引き合いや発注が少ない。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の収束で、取引先の動きが活発となっている。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅や家電の販売はほぼ横ばいながら、百貨店やスーパーマーケットの売上が増加し、飲食店を始め旅館・ホテル等の売上も持ち直している。また、賃上げに踏み切る企業が次第に増加するなど、雇用環境も改善している。

○	金融業（調査担当）	取引先の様子	・建設業など一部の業種は低調であるが、人流増加の恩恵を受ける業種は着実に回復している。長らく停滞している自動車製造業についても、依然不安定な状況ではあるものの、生産に改善がみられる。
○	金融業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、マスク着用も個人の判断となっており、観光業や飲食業等の利用者の動きは戻り、売上は上昇している。
○	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・広告出稿が増えてきている。
○	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・毎年2月は売上が落ち込んでいるが、今月は前年比で若干増加している。新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残っているが、景気全体としては少しずつ上向いている。
○	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・企業が人材教育に対して投資を増やしている。
○	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・食品の値上げの影響で買い控えや節約傾向になっており、品物を慎重に選んでいる。一方、インバウンドが増え、酒の需要や売上は増加している。
□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年3月は移動シーズンで注文が多く、前年もコロナ禍ではあったが売上や利益は計画以上であった。しかし、今年は鳥インフルエンザの影響で、原料となる鶏が計画どおりに入荷せず、注文が多いにもかかわらず、工場生産が進まず、売上が危機的な状態である。近年にない深刻な状況で、大きなチャンスロスを招いている。
□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原材料は不作であるが、商品の需要は比較的多い。しかし、原料価格の高騰により商品価格も上昇したため、荷動きが控え気味になっている状況である。
□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・低迷していたイベントや飲食店営業が復活しつつあり、売上も回復している。
□	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の体制が変わると同時に、協力工場の構成が若干変化すると考えられる。しばらくはこの状態が続き、取引先である協力工場の新しい体制により、若干受注量や生産量の変動が見込まれる。
□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫の間合せが相変わらず多く、業者からは値上げに関する連絡も増えている。新型コロナウイルス感染症の規制緩和による人の動向や4月からの一斉の値上げに対する駆け込み需要などで、出荷量は多い。
□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・商業施設の客足には徐々に回復の兆しがみられる。住宅着工では、新築戸建て住宅に勢いが無い状況が続いているが、リフォームの相談は増加傾向にある。また、雇用面では建設業の人手不足が特に強い。
□	不動産業（経営者）	取引先の様子	・金融機関の会話では、資金繰りに苦戦している人が増えている状況である。
□	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・顧客からの発注数や予算規模は横ばいである。
□	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・活発な活動はみられず、引き合いもない。
□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・物価の高止まりや金利上昇の局面にあり、3か月前との比較では変動はない。
▲	繊維工業（営業担当）	それ以外	・大企業の賃金上昇は大きなプレッシャーである。資材はますます高くなり、経営の取組が難しくなるばかりである。利益がでなければ、企業としては成り立たないため、先行きが懸念され、閉店が脳裏をよぎっている。
▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先の生産調整基調に変化がない。
▲	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体関連は、在庫調整などで減産傾向である。
▲	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・前年から若干上向いているが、半導体関連では9月まで受注がなく、生産が落ちている状況である。

	▲	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・ 県工事の第5回発注予定では、令和5年度の第1四半期の発注予定が発表されているが、発注時期が未定であるため不安な状況である。繰越工事が多いことは非常によいが、発注される時期を確認しておきたい。
	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 中国経済の回復が遅く、米国の景気も悪いため輸入や輸出が低迷している。さらに、新型コロナウイルス感染症が発生した際は、港での労働力不足もあり海上運賃が高騰していたが、現在はコンテナに入れる品物がなく、海上運賃が下落し輸出・輸入に頼る会社は厳しい状況である。
	▲	金融業（営業）	取引先の様子	・ 物価高騰の影響は大きく、値上げ幅は許容範囲を超えている。1年前に見積りを取った外壁修繕工事は、改めて見積りを取ると2倍になっており、計画どおりにビジネスが進まない状況が起こりつつある。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・ 市町村からの調査や計画、設計の委託業務を請け負っている。例年、3月に次年度の業務のプロポーザルや入札の案内が多く出されるが、今年度は件数が少ない。市町村で該当する業務の予算が少ないことが要因と考えられる。
雇用 関連 (九州)	◎	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・ 2023年3月卒の4年生が卒業し、就職戦線は2024年卒の4年生に移行している。彼らの動きは、前年より約1か月早くなっており、九州でも既に内定が始まっている。一方で、企業の求人数が増えたこともあり、学生のエントリー社数が減っていることと、合同企業説明会の参加人数も減っている。
	○	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・ 派遣の新規問合せや直接雇用を前提とした話が増えている。また、求職者の動きも活発になり、長くエントリーにならなかった案件などにも問合せがあり、案件の進捗率が上がっている。
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ イベントや宴会が増えており、その影響で受注も増加傾向である。
	○	人材派遣会社（社員）	それ以外	・ 新規求人数が増えており、欠員補充や増員で採用する企業も増加している。以前は、既存社員で対応していた企業が多かったが、今は雇用を希望している。また、派遣登録で予約が入るが、仕事が決まり登録をキャンセルする人が増えている。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 街に人が多くなっており、街を歩いていると韓国語をよく耳にしている。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・ 3月にマスク着用が個人の判断となり、人の流れや飲食を始めとする消費行動は活発さを増している。ホテルや商業施設も多くの人でにぎわっている。
	○	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ 求人数は前年比増加で推移しているが、求職者についてはこれまで反応が鈍かった。しかし、前月は求職者数が前年を上回っており、それに伴い、紹介件数や就職件数も増加となり、転職も増えている。
	○	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・ 2024年卒求人数は、前年との比較では増加している。企業の採用活動も活発に動いており、業種によっては、採用人数を大幅に増やす企業もみられる。また、既に内定を得ている学生も見受けられる。
	□	新聞社〔求人広告〕（社員）	周辺企業の様子	・ 旅行や宿泊施設の広告は、回復傾向が鮮明になっている。国内のみならず、海外旅行の広告も復活しており、新型コロナウイルス感染症発生以降休止していたクルーズ船の広告も掲載が続いている。これまで行動を控えていた高齢者の動きが戻りつつある。
	▲	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ 在職中の求職者数が増加している。
	×	—	—	—